

# 平成30年度大学入試センター試験アンケートの分析

愛媛県立宇和島東高等学校 渡邊弘樹  
 愛媛県立川之石高等学校 清水隼人  
 愛媛県立西条高等学校 三浦怜也

## 1 はじめに

大学入試研究委員会では、県内の高校生に対して、昭和63年度入試から共通一次試験、平成2年度入試からは大学入試センター試験に関するアンケートを毎年実施している。このアンケートの結果を分析し、数学の指導方法について研究を続けてきた。今回も昨年度に続き意識調査のアンケートを「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」の科目別に行った。

今年度の大学入試センター試験は、志願者が582,671人(昨年度575,967人)で、昨年度と比べて6,704人増加した。受験率は95.12%(昨年度95.13%)とほぼ昨年度なみであった。

受験者数は、「数学Ⅰ・数学A」が396,479人(昨年度394,557人)、「数学Ⅱ・数学B」が353,423人(昨年度353,836人)と、昨年と比べ「数学Ⅰ・数学A」は増加したが、「数学Ⅱ・数学B」はやや減少した。平均点は「数学Ⅰ・数学A」が61.91点(昨年度61.12点)、「数学Ⅱ・数学B」が51.07点(昨年度52.07点)であった。(数字は大学入試センター発表)

平均点から見て「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」とも昨年度と同程度の点数となった。「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」の両方の平均点の変化が1点以内であるのは、平成2年(当時は「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」)から初めてである。

「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」とも、大問構成に変化はなく、配点についても昨年と同様である。問題数、分量は昨年並みであり、計算量は「数学Ⅰ・数学A」では昨年並みであるが思考力を問う問題が増え、「数学Ⅱ・数学B」ではやや増加した。

「数学Ⅱ・数学B」で昨年に見られたベクトルと座標の融合といった融合問題はなくなったが、「数学Ⅰ・数学A」ではデータの分析において、過去にない読み取り問題も出題されており、考察・分析する力が問われる問題が増えてきている。

## 2 アンケートの概要

大学入試研究委員会では、例年、愛媛県内各高校の協力を得て、現役高校生の実態を調査している。

アンケートはセンター試験の各設問別に正答、誤答、無答を記入する問題編と、受験生がセンター試

験を受験しての意識を問うアンケート編の2部構成となっている。今回のアンケートは県内2172名の受験生の協力を得ることができた。また、アンケートはセンター試験直後に実施していただいた。

なお、表中の愛媛県平均点は、アンケートによる結果であり、全県下の受験生の平均点ではない。

表1 平均点比較

	愛 媛		全 国	
	今年	(前年)	今年	(前年)
数学ⅠA	58.3	(57.7)	61.91	(61.12)
数学ⅡB	46.4	(45.8)	51.07	(52.07)

( ) は、前年度の平均点を表す。  
 全国平均は大学入試センター発表。

表2 全国平均点、愛媛県平均点の推移

数学Ⅰ・A	愛 媛	全 国	差
H21	68.0	64.0	4.0
H22	49.4	49.0	0.4
H23	70.6	66.0	4.6
H24	71.0	70.0	1.0
H25	49.6	51.2	-1.6
H26	60.6	62.1	-1.5
H27	60.7	61.3	-0.6
H28	55.2	55.3	-0.1
H29	57.7	61.1	-3.4
H30	58.3	61.9	-3.6

数学Ⅱ・B	愛 媛	全 国	差
H21	49.3	50.9	-1.6
H22	55.2	57.1	-1.9
H23	53.0	52.5	0.5
H24	48.8	51.2	-2.4
H25	52.4	55.6	-3.2
H26	48.1	53.9	-5.8
H27	34.3	39.3	-5.0
H28	44.0	47.9	-3.9
H29	45.8	52.1	-6.3
H30	46.4	51.1	-4.7

表1は本アンケートによる本県の平均点と大学入

試センターが発表している平均点の比較である。

結果は、表2のとおりである。今年度は県内高校生の平均点はやや増加し、全国平均との差は「数学Ⅰ・数学A」では昨年並み、「数学Ⅱ・数学B」では1.6ポイント小さくなった。当分析を通じてその原因を探り、今後の県内高校生の学力向上へとつなげていきたい。

### 3 センター試験の全体的傾向

#### (1) 数学Ⅰ・数学A

昨年度に引き続き必須問題2題と選択問題3題の構成であり、問題文の誘導が丁寧になされている。必須問題の第1問では最初の問題が6次式の問題となっているが、誘導を理解できればどの問題も難易度は高くない。第2問に関しては図形的な性質の読み取りやデータの分析の読み取りなど、考察する力や読み取る力が必要な問題構成であった。特にデータの分析に関しては過去にない問題のため戸惑う高校生も多かったかもしれない。選択問題のうち、第3問の場合の数と確率では2個のサイコロの問題で、条件付確率も出題された。最後の設問以外は解きやすい問題である。第4問の整数の性質は約数の個数と1次不定方程式の問題で、選択問題の中では解きやすい。1次不等式は過去に何度も出題されている。第5問の図形の性質では前半部分は傾向通りであるが、線分比から交点の位置を考えさせる問題などは目新しい問題である。昨年より読み取る問題が増え、全体としては昨年度と同程度の難易度であった。

表3 選択問題をいつ選んだか

選択した問題のみを解いた	選択した問題以外も解いてみて、自信のある問題を解答した
90.1%	9.7%

表4 大問別平均点および得点率

問題番号 (配点)	平均点 (点)	得点率 (%)
第1問 (30) 数と式 2次関数	16.6 (18.6)	55.3 (62.0)
第2問 (30) 図形と計量 データの分析	18.4 (18.4)	61.3 (61.3)
第3問 (20) 場合の数と確率	11.9 (12.3)	59.5 (61.2)
第4問 (20) 整数の性質	11.6 (14.0)	58.0 (70.0)
第5問 (20) 図形の性質	11.4 (11.5)	57.0 (57.5)

( ) は、Benesse集計の全国平均を表す。

表5 選択問題の組合せパターン

組合せパターン	割合
第3問と第4問 (確率+整数)	64.5%
第3問と第5問 (確率+図形)	18.8%
第4問と第5問 (整数+図形)	16.8%

第1問

[1] 数と式

6次式の値を求める問題。式の次数が高いが、 $n=0$ 、1、2と代入すればAをXで表せるという誘導の意図が分かれば比較的解きやすい。

[2] 集合と命題

集合の包含関係と必要条件、十分条件に関する問題である。与えられた集合の要素を書き出し、図で表すことができれば考えやすい。必要条件、十分条件を考察する問題では、条件p、sの式を正しく変形し、条件の指し示す範囲を正しく考察することができたかがポイントである。

[3] 2次関数

2次関数の最小値を場合分けする典型的な問題である。平方完成をする際に、2乗の計数にaを含むため慎重に計算する必要がある。場合分けの誘導は丁寧であり、2次関数に慣れていれば十分対応できる問題である。最後の2問の[カ]、[キ]の正答率がそれぞれ

33.7%、29.2%と低くなっている。Benesse集計の全国平均(以降、全国平均はBenesse集計の全国平均を表す)と最も差がついたのは軸の式を求める設問[ク]である。本県が83.9%に対して全国平均は87.2%

となっており、2乗の係数が文字の場合、平方完成を正確にできていないことが推察できる。

第2問

[1] 図形と計量

前半部分は余弦定理を用いて余弦の値を求め、そこから正弦の値を求める基本的な問題で、本県の生徒も正答率が高い。後半部分のCDと $AB \sin \angle ABC$ の大小関係から図形の位置関係を考える問題は目新しく、戸惑った高校生も多いと思う。[キ]の本県高校生正答率も約40.5%、全国集計では43.4%と第2問で最も差がついた問題である。[ケ]は本県は7.1%、全国が6.5%となっており、この問題は「数学Ⅰ・数学

A」の中で最も正答率の低い問題であった。公式を扱えるだけでなく、問題の条件を図示し、状況を図によってイメージすることを日頃から心がけることが必要である。

〔2〕データの分析

陸上競技大会に出場した選手の身長と体重のデータを題材とした問題である。(1)は、ヒストグラムと箱ひげ図の特徴をつかみ、情報を正確に読み取れるかがポイントであった。(2)は散布図と箱ひげ図について正しいものを選ぶ問題。Zが補助線の傾きを示していることに着目できたかがポイントであった。

(3)はデータの平均値の条件から偏差の積の和について考える問題。左辺を展開し、xとyについてまとめ直すことができれば、答えを導くことができる。全体的に文章量が多く、与えられた情報を整理しながら正しく読み取る力が必要であった。全国平均との比較では、「データの分析」に関しては全国平均より本県の平均の方が高い傾向がある。

第3問「場合の数と確率」

2個のサイコロを同時に投げた時の確率を題材とした問題。(1)は基本的な内容で本県、全国ともに正答率が高い。(2)は条件付き確率の問題で今年も出題された。条件付き確率の正しい理解ができているかが問われる。正答率をみると、全国平均より2%から3%ほど本県は低くなっており、条件付き確率は課題の一つである。(3)は確率の積と積事象の大小関係を求める問題で、等号、不等号を選択する目新しさはあるが、正しくそれぞれの確率を求めることができれば正しい選択肢を選ぶことができる。設問〔4〕

は第3問の中で全国平均と最も差がついた問題で、本県が61.0%、全国平均が65.1%となっている。(4)は2回の試行のうちにある事象が起こる確率を求める問題。後半部分は前半部分で考えた事象が、求める確率の一部であることに気付けると答えを導ける。問題量、計算量ともに昨年より減少したが、条件付き確率の定義など、正しい理解を求められる問題である。

第4問 「整数の性質」

約数の個数や不定方程式に関する出題であった。昨年度と比較して平均点がかなり上がった問題である。昨年は選択問題の3題中最も得点率が低かったが、今年是全国平均では1番高くなっている。(1)では144の素因数分解とその約数の個数を求める問題。(2)では1次不定方程式の一般解を求める問題と、(1)、(2)ともに基本事項を理解できていれ容易に解ける問題である。最後の設問〔5〕は正答率が本県、

全国ともに10%を切っており、難易度の高い問題であったが、それ以外は全体的に解きやすい問題であった。標準問題を確実に解く力は今後も必須である。同時に、約数や倍数の性質を正しく理解し、思考力を高めていくことも重要である。

第5問 「図形の性質」

直角三角形を題材として、内角の二等分線の性質や方べきの定理といった基本事項や、線分の比の大小や図形の位置関係を考察する問題であった。設問〔4〕

からの正解率は低く、線分の比から平行かどうかの考察はイメージがしづらい高校生も多かったと思う。また、正答率が3割を切るような問題はなかったが、平均点では本県も全国も選択問題の中では一番低くなっている。問題量、計算量は昨年より減少している。方べきの定理といった基本的な問題を反復練習すると共に、日頃から図形をかくことにより与えられた条件を整理できるように鍛錬を積む必要がある。正解率では大きな差がある問題はなかった。

(2) 数学Ⅱ・数学B

問題構成、設問数は昨年と同じで、難易度は昨年と同程度であった。第2問の「微分法・積分法」は難易度がやや高く、計算量も増加している。昨年度のような融合問題が出題されてはいなかった。第1問の最初が1ラジアン定義について問われるなど、教科書の定義についても正確な理解が求められる問題も出題されている。第2問は今年度平均点が大きく下がり本県、全国ともに4割を下回っている。選択問題については、今年度も第3問と第4問の組み合わせを解く高校生が9割を超えていた。選択した問題のみを解いている生徒の割合も非常に高いことから、今後もこの組み合わせを学習する受験生が多いであろう。

表4 選択問題をいつ選んだか

選択した問題のみを解いた	選択した問題以外も解いてみて、自信のある問題を解答した
96.0%	3.7%

表5 大問別平均点および得点率

問題番号(配点)	平均点(点)	得点率(%)
第1問(30) 三角関数 指数・対数関数	16.0 (17.2)	53.3 (57.3)
第2問(30) 微分法・積分法	10.7 (11.1)	35.7 (37.0)

第3問 (20) 数列	10.3 (11.0)	51.5 (55.0)
第4問 (20) ベクトル	9.8 (10.7)	49.0 (53.5)
第5問 (20) 確率分布と統計的 な推測	5.0 (4.3)	25.0 (21.5)

( ) は、Benesse 集計の全国平均を表す。

表6 選択問題の組合せパターン

組合せパターン	割合
第3問と第4問 (数列+ベクトル)	92.1%
第3問と第5問 (数列+確率分布と統計的な推測)	3.9%
第4問と第5問 (ベクトル+確率分布と統計的な推測)	4.0%

#### 第1問

##### [1] 三角関数

1 ラジアンアの定義が問われた設問アの正解率は52.9%と低く、約半数の高校生がラジアンアの定義について正しく理解できていなかった。最後の設問カを除けば三角関数の中で最も正解率が低く、教科書の各単元の定義については説明できる程度までは理解する必要がある。全国平均でも同様の正解率になっていた。その他の問題は、加法定理や三角関数の合成を用いて方程式を解くオーソドックスな問題であった。

##### [2] 指数・対数関数

指数部分に対数を含む対数関数の不等式を題材とした出題。前半部分は、累乗根や指数と対数の性質、真数条件など基本的な事項の問題である。設問カで正解率が下がっており、3乗根であるcの値を代入したとき、対数の値の処理で計算間違いをしてしまった受験生が多いのではないだろうか。指数と対数の計算は慣れが必要であるので、十分な練習をしておくことが大切である。後半部分の必要十分条件の問題では、2次関数に帰着できたかがポイントである。「指数・対数関数」の正解率は本県の高校生の正解率は全国平均と比較してどの設問も3~6%程度低い。本県の課題の分野の1つであることが推察できる。

#### 第2問「微分法・積分法」

放物線と直線を題材とした出題。昨年度よりも計算量が増加し難化した問題。放物線と直線が接する

条件を用いて、囲まれた面積や、3次関数の増減、最小値などを求める。接線、面積、極値、3次関数の増減など、微分法・積分法の幅広い問題構成となっている。内容自体は典型的な問題であるが、複数の文字を含む計算があるため、複雑な計算を正確に処理できるかが問われた。特に、接線と放物線に囲まれる部分の面積を求める設問カでは、正解率が5割を下回っており、全国平均から約3%低い。接線と放物線に囲まれる面積のテクニックを用いれば計算はかなり楽になるが、いずれにせよ正確に計算できるよう日頃から練習しておく必要がある。後半部分は、具体的な関数を与えられていない状況で、面積から関数を求める問題。微分と積分の関係を理解していなければ対応しづらい問題で、正解率も低い。全国平均と最も差がついたのはpとqの関係式を導く設問イで、本県が68.5%、全国平均が73.0%となっている。

#### 第3問「数列」

昨年よりも少し難化した。最終問題を除いて計算量は昨年並みである。等差数列と等比数列、またそれらによって定義された数列に関する出題。前半部分は、条件から等差数列、等比数列を求める基本的な問題であるが、正解率は8割を下回っている。また、一般項を求める設問と比較して、和を求める設問カとサはさらに正解率が低い。等差数列、等比数列の和は基本事項であるが、まだまだ定着しきれていないことがわかる。全国平均と比較しても5%以上低く、本県の高校生の計算力の低さが表れている。後半部分は誘導の意図を理解できるかがポイントである。階差数列を求める設問カの選択は、条件を丁寧に整理する力が必要である。教科書の基本事項を確実に正解する力と、正確な計算力を身に付けられるよう演習を繰り返すことが大切である。

#### 第4問「ベクトル」

三角形ABCを題材とした出題で、前半部分はベクトルABを2つのベクトルで表す基本的な問題。比較的解きやすい問題であるが、最初の設問であるベクトルABを表す問題の正解率が8割を切っている点は気になる。始点が三角形の頂点ではないベクトルを用いて表すことに慣れていないことと、ベクトルの差を正しく理解できていない受験生が多いことが読み取れる。後半部分は複数の文字を含む計算となるため、正解率も下がっている。(3)の結果をうまく利用できていない受験生が多かった。また、この大問に限ったことではないが、複数の文字を含む計算

になった場合、本県の高校生は正解率を下げている傾向がある。ほとんどの問題で全国平均との差が5%程度ついており、課題の多い単元ともいえる。

#### 第5問「統計とコンピュータ」

(1) はa枚のカードから1枚取り出し、カードに書かれた数について、確率や期待値、分散などを求める問題。いずれも基本事項をきちんと押さえておけば十分に対応できる問題である。(2) は箱から取り出した3枚のカードについて、確率、平均、分散、確率の近似値を求める問題で、誘導にそって正規分布表を用いることができるかがポイントである。全国平均と比較すると、本県の高校生のほうが正解率が高い設問も多いが、選択者が少なく判断が難しい。

しかし、最初の3問の[ア]、[イ]、[ロ]は全国平均よりかなり低く、基本事項の定着に課題があることがうかがえる。

難易度は高くないが問題数は多く昨年の2倍となっており、素早く正確に計算できることが求められた。

#### 4 研究のまとめと今後の課題

今年度の出題傾向とアンケート結果から次のことが考えられる。

##### (1) 正確な計算力

昨年度の課題と同じになるが、本県の高校生の計算力にはまだまだ課題が多い。特に、「数学Ⅱ・数学B」の「指数・対数関数」と「数列」で全国平均と顕著な差が出ている。複数の文字を含む複雑な計算の処理は今後練習が必須である。日頃の問題演習の中で、複雑な計算に対して素早く正確に計算する訓練を行うとともに、導いた答えが解答欄に合わないときにどこを間違えているのかを落ち着いて見直せる力も鍛えていくこと大切である。

##### (2) 定義の正しい理解と考察力

「数学Ⅱ・数学B」の第1問ではラジアン定義について出題され、正解率も低かった。「数学Ⅰ・数学A」の第2問の「図形と計量」、「データの分析」では、今まで見なかったタイプの問題が出題され、考察する力が問われた。これらの力はすぐに身につくものではないが、教科書の各単元の基本的な定義などは説明できるようにしておく必要があるだろう。また、条件付き確率を問う設問は、今年も出題されたが、今回も正答率は低い。こちらも定義をきちんと理解し、十分に練習をしておくことが大切である。

### 平成30年度大学入試センター試験 アンケート集計結果

#### 数学Ⅰ・A

##### 1 問題は全体として、教科書の節末・章末問題と比べ

	人数	%
やさしかった	197	9.1
同じ程度だった	1118	51.4
むずかしかった	857	39.5

##### 2 この程度の問題ならば

	人数	%
教科書中心の授業で十分	733	33.8
受験準備が必要	1432	65.9
無答	7	0.3

##### 3 出題数は

	人数	%
少なすぎる	28	1.3
ちょうどよい	1668	76.8
多すぎる	476	21.9

##### 4 出題分量に対して、時間は

	人数	%
少なすぎる	834	38.4
ちょうどよい	1245	57.3
多すぎる	93	4.3

##### 5 問題の傾向についてみると

	人数	%
知識を問う傾向	326	15.0
考え方を見る傾向	714	32.9
知識と考え方のバランスがとれている	1132	52.1

##### 6 解答形式(マークセンス方式)について、その練習は

	人数	%
しなくてもよい	281	12.9
少しはしたほうがよい	1404	64.6
大いにしなければならない	487	22.5

##### 7 どの問題を選択しましたか

	人数	%
3と4	1400	64.5
3と5	408	18.7
4と5	364	16.8

##### 8 選択問題について

	人数	%
選択した問題のみ解いてマークした	1957	90.1
選択した問題以外も解いてみて、自信のある解答をマークした	211	9.7
無答	4	0.2

自己採点結果

第1問	正答(%)	誤答(%)	無答(%)
ア	95.9	3.9	0.3
イ	64.3	32.7	3.0
ウ	72.4	25.0	3.0
エ	57.3	39.3	3.5
オ	77.0	22.6	0.4
カ	44.7	54.2	1.1
キ	61.3	37.9	0.7
ク	54.5	44.8	0.7
ケ	83.9	15.1	1.0
コ	62.2	34.8	3.0
サ	51.2	44.0	4.7
シ	33.7	55.4	10.8
ス	29.2	54.9	15.9
第2問	正答	誤答	無答
アイ	94.3	5.4	0.3
ウエ	91.7	7.9	0.5
オカ	40.5	58.2	1.2
クケ	7.1	79.9	12.9
サ	86.2	13.4	0.5
シ	81.7	17.9	0.4
ス	74.0	25.1	0.8
セ	60.5	38.1	1.3
ソ	48.9	48.6	2.5
第3問	正答	誤答	無答
アイ	96.2	3.7	0.2
ウエ	93.6	6.0	0.4
オカ	94.2	5.4	0.4
キ	52.6	45.8	1.6
ク	56.0	42.2	1.8
サ	60.1	37.0	2.9
シ	61.0	36.5	2.5
スセソ	39.5	48.7	11.8
チツテ	13.6	64.8	21.5
第4問	正答	誤答	無答
アイ	98.0	1.6	0.4
エ	84.8	14.4	0.8
カ	87.9	9.4	2.7
キ	84.5	12.8	2.8
ケ	78.3	17.2	4.5
コサ	78.5	16.2	5.3
ス	60.1	32.9	7.1
セソ	8.0	79.6	12.4
第5問	正答	誤答	無答
アイ	88.7	10.1	1.2
エカ	73.9	22.7	3.4

キケ	73.0	22.6	4.4
コサ	50.1	45.3	4.7
シ	42.3	47.6	10.1
セソ	30.7	55.3	14.0
タ	40.3	50.1	9.6

(小数第2位を四捨五入したため、一部合計が100%になっていない)

数学Ⅱ・B

1 問題は全体として、教科書の節末・章末問題と比べ

	人数	%
やさしかった	69	3.2
同じ程度だった	667	30.7
むずかしかった	1436	66.1

2 この程度の問題ならば

	人数	%
教科書中心の授業で十分	316	14.5
受験準備が必要	1837	84.6
無答	19	0.9

3 出題数は

	人数	%
少なすぎる	27	1.2
ちょうどよい	1310	60.4
多すぎる	835	38.4

4 出題分量に対して、時間は

	人数	%
少なすぎる	1185	54.6
ちょうどよい	830	38.2
多すぎる	157	7.2

5 問題の傾向についてみると

	人数	%
知識を問う傾向	411	18.9
考え方を見る傾向	635	29.3
知識と考え方のバランスがとれている	1126	51.8

6 解答形式(マークセンス方式)について、その練習は

	人数	%
しなくてもよい	275	12.7
少しはしたほうがよい	1298	59.8
大いにしなければならない	599	27.5

7 どの問題を選択しましたか

	人数	%
3と4	2001	92.1
3と5	84	3.9
4と5	87	4.0

8 選択問題について

	人数	%
選択した問題のみ解いてマークした	2085	96.0
選択した問題以外も解いてみて、自信のある解答をマークした	80	3.7
無答	7	0.3

自己採点結果

第1問	正答(%)	誤答(%)	無答(%)
ア	52.9	46.0	1.1
イ	60.5	37.4	2.1
エカ	62.5	35.4	2.2
キ	85.6	13.4	0.9
ク	74.5	23.3	2.2
ケ	62.1	35.0	2.9
サシセ	33.3	56.4	10.4
ソタ	77.5	19.7	2.8
チツ	59.4	35.8	4.8
テ	75.8	19.3	4.8
トナ	45.4	48.6	6.0
ニ	40.2	54.7	5.1
ヌネ	24.3	59.7	16.0
ノヒ	21.9	58.1	20.0
第2問	正答	誤答	無答
ア	93.3	6.4	0.3
イエ	68.5	29.8	1.7
オ	79.9	18.1	1.9
カクケ	46.2	47.6	6.3
コ	72.4	20.8	6.8
サ	36.3	53.4	10.3
シセ	18.8	60.5	20.7
ソ	14.0	74.1	11.9
タチ	19.3	59.3	21.3
ツ	30.8	56.9	12.3
テ	16.6	70.4	13.0
トナヌ	4.6	64.4	31.0
第3問	正答	誤答	無答
アイ	75.4	21.3	3.2
ウエ	78.6	18.1	3.3
オカキ	67.4	26.5	6.1
クケ	75.5	17.2	7.4
コ	76.3	16.3	7.3
サシヌ	56.6	31.9	11.5
セ	38.1	51.8	10.1
ソタチ	19.6	57.5	22.9

ツト	33.7	42.0	24.3
トナヌ	6.9	60.6	32.5
第4問	正答	誤答	無答
ア	79.4	19.1	1.5
イ	93.4	5.2	1.3
ウエカ	75.8	21.6	2.6
クケ	66.7	27.5	5.9
コサシ	56.2	33.0	10.9
セソ	46.8	36.9	16.4
タチ	52.7	30.4	16.9
ツテ	23.5	53.7	22.8
トナヌ	8.2	59.0	32.7
第5問	正答	誤答	無答
アイ	49.3	46.5	4.2
ウ	40.3	54.9	4.9
エ	34.7	60.4	4.9
オ	51.4	44.4	4.2
カ	22.2	71.5	6.3
キ	18.8	75.0	6.3
クケ	32.6	58.3	9.0
コサ	24.3	65.3	10.4
シス	19.4	68.1	12.5
セソタ	12.5	72.9	14.6
チツテ	13.2	71.5	15.3
トナ	11.8	70.8	17.4
ニ	26.4	52.1	21.5
ヌネ	7.6	65.3	27.1
ノハ	6.9	65.3	27.8
ヒ	17.4	58.3	24.3

(小数第2位を四捨五入したため、一部合計が100%になっていない)